

科目名	ITリテラシー	単位数	2	科目コード				
授業形態	演習	対象学生		開設期	2021年/通年			
受講条件		開設時期	2021年4月	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	パソコン、スマートフォンなどの情報機器に関する基本理解							
授業の一般目標	パソコンの基本的な仕組みを知り、セキュリティーやネットワーク構築などのパソコンを扱う際の基本的な知識を身につける。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・BBC マイクロビット公式ユーザーガイド 参考書等)	留学生のためのタイピング練習、留学生のためのPython入門 micro:bitではじめるプログラミング 第2版							
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 : コンピューターに関する基本的な知識を身につける <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 : ITのさまざまな情報を得ることにより、適切に業界でやりたいものを学べる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 : 今後IT系の専門学校に進学する際に自身がどの分野に興味をもっているのかを探ることができる <input type="checkbox"/> 態度の観点 : ITへの興味を持ち、積極的に情報収集に取り組むようにする <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点 : IT言語を身につけ、発生した事案に対して適切な処置が取れるようになる。							
授業計画(全体) :	IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。							
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等		授業の記録				
	回数に合わせて、行数を増やしてください							
第1,2回	コンピューターの基礎							
第3,4回	コンピューターの種類							
第5,6回	ハードウェアの構成							
第7,8回	メールの仕組み							
第9,10回	ソフトウェアの役割							
第11,12回	タイピング練習							
第13,14回	エクスプローラーの使い方							
第15,16回	ショートカットについて							
第17,18回	ファイル管理について							
第19,20回	キーボードの練習							
第21,22回	ネットワークとインターネット							
第23,24回	検索エンジンとブラウザの構成							
第25,26回	PCの容量と2進数について							
第27,28回	PC内での数値の扱い方							
第29,30回	期末試験							
成績評価方法	(1)単元ごとに確認テストを課す。 (2)長期休暇で宿題を課す。							
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	○	○		○			80%	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品	○		○		◎		20%	D :59点未満 未修得
演習								
出席								
担当教員	小島 敬子		実務経験紹介					

科目名	ITリテラシー	単位数	2	科目コード				
授業形態	演習	対象学生		開設期	半期			
受講条件		開設時期	後期	秋・実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	Pythonの基礎を理解し、扱ってみることでプログラミングでできることを知り興味を抱かせる							
授業の一般目標	プログラミングの基礎的な知識を演習を通して学ぶ。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	留学生のためのタイピング練習、留学生のためのPython入門 て(テキスト・BBC マイクロビット公式ユーザーガイド micro:bitではじめるプログラミング 第2版							
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点: コンピューターに関する基本的な知識を身につける <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点: ITのさまざまな情報を得ることにより、適切に業界でやりたいものを学べる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点: 今後IT系の専門学校に進学する際に自身がどの分野に興味をもっているのかを探ることができる <input type="checkbox"/> 態度の観点: ITへの興味を持ち、積極的に情報収集に取り組むようにする <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点: IT言語を身につけ、発生した事案に対して適切な処置が取れるようになる。							
授業計画(全体):	IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。							
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等		授業の記録				
	回数に合わせて、行数を増やしてください							
第1,2回	Pythonとは							
第3,4回	四則演算・変数							
第5,6回	組み込み型文字列							
第7,8回	組み込み型リスト							
第9,10回	組み込み型タプル							
第11,12回	組み込み型集合							
第13,14回	条件分岐 if文							
第15,16回	繰り返し for文							
第17,18回	関数							
第19,20回	クラス							
第21,22回	モジュール							
第23,24回	パッケージ							
第25,26回	入出力							
第27,28回	例外							
第29,30回	期末試験							
成績評価方法	(1)単元ごとに確認テストを課す。 (2)長期休暇で宿題を課す。							
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	○	○		○			80%	A(3):80点以上
宿題授業外レポート								B(2):70点以上
授業態度								C(1):60点以上
発表・作品	○		○		◎		20%	D :59点未満 未修得
演習								
出席								
担当教員	小島 敬子		実務経験紹介					

科目名	ITリテラシー		単位数	2	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必須		開設時期	通期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<ul style="list-style-type: none"> ・Windowsの基本操作 ・Word、Excel、PowerPoint、情報倫理の勉強 							
授業の一般目標	日本の会社や大学で、日本語を使用して資料が作れるようになる。							
受講条件								
事前学習について（テキスト・参考書等）	留學生のためのWord入門、留學生のためのExcel入門、留學生のためのPowerPoint 留學生のためのWordドリルブック、留學生のためのExcelドリルブック							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	基本的なOSソフトを使用して何が出来るのかを知る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	積極的にソフトを日常的に活用して日々の改善にあてられるようにする							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネススキルを身につけることで勤務意欲を刺激する							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	知識の収集に対して積極的になる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	必要な場面に応じて、必要な資料を作成できるようになる。							
授業計画（全体）								
IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容				備考		
第1,2回	自己紹介							
第3,4回	Word基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えて、指定時間内にキータイピングする ・課題を与えて、ビジネス文書(罫線活用)を作成する ・印刷設定を理解する 						
第5,6回	Word基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えて、指定時間内にキータイピングする ・課題を与えて、ビジネス文書(イラスト、ワードアート挿入)を作成する 						
第7,8回	Word基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えて、ビジネス文書(罫線、イラスト、ワードアート挿入)を45分間で作成できるようにする 						
第9,10回	Word基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えて、ビジネス文書(罫線、イラスト、ワードアート挿入)を45分間で作成できるようにする 						
第11,12回	Word基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えて、ビジネス文書(罫線、イラスト、ワードアート挿入)を45分間で作成できるようにする 						
第13,14回	Word応用	<ul style="list-style-type: none"> ・広告デザインのレイアウトについて理解し、作成する 						
第15,16回	Word応用	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えて、広告デザインを練習する ・簡単な名刺の作成方法を理解し、作成する 						
第17,18回	Word応用	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺の作品を作成する ・簡単なPOPやチラシの作成方法を理解する 						
第19,20回	Word応用	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なPOPやチラシ作成の練習をする 						
第21,22回	Word応用	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を与えて、A4リーフレットを作成する 						
第23,24回	Word応用	前期試験						
第25,26回	PowerPoint基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・操作方法を理解する ・プレゼンテーション技法を理解する 						
第27,28回	PowerPoint応用	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な課題を与えて、5枚程度のシートを作成する 						
第29,30回	PowerPoint応用	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な課題を与えて、5枚程度のシートを作成し、完成させる 						
成績評価方法								
(1)単元ごとに確認テストを課す。								
(2)長期休暇で宿題を課す。								
(3)期末に定期試験を課す。								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			◎		80%	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	○	○			20%	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度								可 (D):69点~60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	吉野			実務経験紹介				

科目名	ITリテラシー		単位数	2	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必須		開設時期	通期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・Windowsの基本操作 ・Word、Excel、PowerPoint、情報倫理の勉強							
授業の一般目標	日本の会社や大学で、日本語を使用して資料が作れるようになる。							
受講条件								
事前学習について（テキスト・参考書等）	留學生のためのWord入門、留學生のためのExcel入門、留學生のためのPowerPoint 留學生のためのWordドリルブック、留學生のためのExcelドリルブック							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	基本的なOSソフトを使用して何が出来るのかを知る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	積極的にソフトを日常的に活用して日々の改善にあてられるようにする							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネススキルを身につけることで勤務意欲を刺激する							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	知識の収集に対して積極的になる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	必要な場面に応じて、必要な資料を作成できるようになる。							
授業計画（全体）								
IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容				備考		
第1,2回	PowerPoint応用	・課題を与えて、8枚程度のシートを作成する						
第3,4回	PowerPoint応用	・PowerPointを使用して動画の作成						
第5,6回	PowerPoint応用	・PowerPointを使用して動画の作成						
第7,8回	PowerPoint応用	後期試験1						
第9,10回	Excel基礎	・表計算で文字・数字入力、セルの書式設定(フォント、配置、表示)、セル、行・列の操作を理解する						
第11,12回	Excel基礎	・計算式(四則演算、相対参照、絶対参照)、表の作成、検索、置換、オートフィルタ、並べ替え、印刷設定を理解する						
第13,14回	Excel基礎	・計算式(四則演算、相対参照、絶対参照)、表の作成、検索、置換、オートフィルタ、並べ替え、印刷設定を理解する						
第15,16回	Excel基礎	表計算で関数(SUM、AVERAGE、オートSUM)を理解する						
第17,18回	Excel基礎	表計算で関数(COUNT、COUNTA、TODAY、NOW、ROUND)を理解する						
第19,20回	Excel基礎	・表計算で関数(IF)を理解する						
第21,22回	Excel基礎	・グラフの作り方を理解する						
第23,24回	Excel基礎	・グラフの作り方を理解する						
第25,26回	Excel基礎	・課題を与えて、表やグラフを完成させる						
第27,28回	Excel基礎	・課題を与えて、表やグラフを完成させる						
第29,30回	Excel基礎	後期試験2						
成績評価方法								
(1)単元ごとに確認テストを課す。								
(2)長期休暇で宿題を課す。								
(3)期末に定期試験を課す。								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			◎		80%	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○	○	○			20%	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート								良(B):79点~70点
授業態度								可(D):69点~60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	吉野			実務経験紹介				

科目名	上級文法 I		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分		開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	7月のJLPTIに合格できる文法能力を身につける							
授業の一般目標	各セッションの文法のそれぞれの違いを理解しながら、理解だけでなく運用できるようにする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	どんなときどう使う日本語表現文型500(アルク出版)							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	正しい文法の理解を身につける							
□ 思考・判断の観点	文法を理解し、文法問題を正確に解けるようにする							
□ 関心・意欲の観点	文法を身につけることによって日本語での表現意欲をもたせる							
□ 態度の観点	理解するだけでなく運用できるようになることが理解の到達であると認識させる							
□ 技能・表現の観点	適切な文法能力を身につけ表現の幅を広げる							
授業計画 (全体)	①各学習者のレベルに合った文法を問題演習と文法導入ビデオによって学習する。(約45分) ②N3レベルの学習者には教員がN2の文法を導入する。N2以上の学生はN2の文法を使用した寸劇を作成し、発表する。							
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	文法導入	問題演習、N2文法導入(～に関して／～にこたえて)				4月13日		
第2回	文法導入	模擬試験				4月14日		
第3回	文法導入	問題演習、N2文法導入(～をめぐって／～上で)				4月20日		
第4回	文法導入	問題演習、N2文法導入(～をはじめ／～からして)				4月21日		
第5回	文法導入	問題演習、N2文法導入(～かぎり／～折)				4月26日		
第6回	文法導入	問題演習、N2文法(～に際して／～にあたって)				4月27日		
第7回	文法導入	問題演習、N2文法(～とともに／～と思うと)				5月10日		
第8回	文法導入	模擬試験				5月11日		
第9回	文法導入	問題演習、N2文法(～か～ないかのうちに／～次第)				5月18日		
第10回	文法導入	問題演習、N2文法(～上で／～て以来)				5月19日		
第11回	文法導入	問題演習、N2文法(～に先立って／～つつある)				5月25日		
第12回	文法導入	問題演習、N2文法(～つつある／～ようとしている)				5月26日		
第13回	文法導入	問題演習、N2文法(～ばかりだ／～つつ)				6月1日		
第14回	文法導入	模擬試験				6月2日		
第15回	文法導入	問題演習、N2文法(～ぬきで／～をぬきにして)				6月8日		
第16回	文法導入	問題演習、N2文法(～に限り／～にかぎって)				6月9日		
第17回	文法導入	問題演習、N2文法(～かぎり(は)／～かぎりでは)				6月15日		
第18回	文法導入	問題演習、N2文法(～ばかりか／～にかぎらず)				6月16日		
第19回	文法導入	問題演習、N2文法(～のみならず／～はもとより)				6月22日		
第20回	文法導入	模擬試験				6月23日		
第21回	文法導入	問題演習、N2文法(～くらいなら／～だけの)				6月29日		
第22回	文法導入	問題演習、N2文法(～だけまし／～一方(で))				6月30日		
第23回	文法導入	ロールプレイ演習				7月6日		
第24回	文法導入	ロールプレイ演習				7月7日		
第25回	文法導入	ロールプレイ演習				7月13日		
第26回	文法導入	ロールプレイ演習				7月14日		
第27回	文法導入	ロールプレイ演習				7月20日		
第28回	文法導入	ロールプレイ演習				7月21日		
第29回	文法導入	試験直前対策授業				9月7日		
第30回	文法導入	試験直前対策授業				9月8日		
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上							
	知識・理	思考・	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○		○			秀 (S) : 100点～90点
小テスト								優 (A) : 89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点～70点
授業態度				○				可 (D) : 69点～60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員	川 寄			実務経験紹				

科目名	上級文法Ⅱ	単位数	2	科目コード				
授業形態		対象学生	1年生	開設期	半期			
区分		開設時期	後期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	12月のJLPTに合格できる文法能力を身につける							
授業の一般目標	各セッションの文法のそれぞれの違いを理解しながら、理解だけでなく運用できるようにする							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	どなたときどう使う日本語表現文型500(アルク出版) TRY! N2(アスク出版)							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	正しい文法の理解を身につける							
□ 思考・判断の観点	文法を理解し、文法問題を正確に解けるようにする							
□ 関心・意欲の観点	文法を身につけることによって日本語での表現意欲をもたせる							
□ 態度の観点	理解するだけでなく運用できるようになることが理解の到達であると認識させる							
□ 技能・表現の観点	適切な文法能力を身につけ表現の幅を広げる							
授業計画(全体)								
N2、N3グループでそれぞれ本日やる文法を決める。⇒自主勉にて文法を理解⇒ペアで会話を作って発表(教師はビデオ撮影)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	文法導入・理解	スタッフ募集のお知らせ						
第2回	文法の運用	スタッフ募集のお知らせ						
第3回	文法導入・理解	転任のあいさつ						
第4回	文法の運用	転任のあいさつ						
第5回	文法導入・理解	ホテルの仕事						
第6回	文法の運用	ホテルの仕事						
第7回	文法導入・理解	台風情報						
第8回	文法の運用	台風情報						
第9回	文法導入・理解	就職活動						
第10回	文法の運用	就職活動						
第11回	問題演習	パワードリル、N2 TRY、N2総まとめなどの問題演習部分から コピーを配布して演習実践						
第12回	問題演習							
第13回	問題演習							
第14回	問題演習							
第15回	問題演習							
第16回	問題演習							
第17回	模擬試験	模擬試験						
第18回	模擬試験							
第19回	文法の運用	苦勞した5年間						
第20回	文法導入・理解	苦勞した5年間						
第21回	文法の運用	オオカミと生態系						
第22回	文法導入・理解	オオカミと生態系						
第23回	文法の運用	取引先で						
第24回	文法導入・理解	取引先で						
第25回	文法の運用	食べ放題						
第26回	文法導入・理解	食べ放題						
第27回	文法の運用	満員電車						
第28回	文法導入・理解	満員電車						
第29回	試験前対策							
第30回	試験前対策							
成績評価方法	単位認定 総合成績 60点、出席率 80%以上							
	知識・理解	思考・	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○		○			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度				○				可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員	川 壽			実務経験紹				

科目名	読解 I	単位数	2	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年	開設期				
区分		開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	7月のJLPTにて自身が目標とするJLPTに合格できるだけ読解力をつけ、その知識を会話・作文に反映できるようにする。							
授業の一般目標	語彙を覚え、正しい選択を選べるだけでなく、更にそれを運用できるようにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	N2完全マスター、							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	自身のレベルに合う読解問題に対応できる語彙・文法力を身につける。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	選択肢の中から正しい解答を選択できるようにする。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	読解力を高め、日本語で本を読む楽しさを知る。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	集中力を保ち、わからないことは積極的に質問する態度を身につける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	文章を構造的に読みとれるようにする。							
授業計画 (全体)								
①								
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	N2			備考			
第1回	語彙の定着	1W1D、1W2D			4月11日			
第2回	語彙の定着	1W3D、1W4D			4月13日			
第3回	語彙の定着	1W5D、1W6D			4月18日			
第4回	語彙の定着	2W1D、2W2D			4月20日			
第5回	語彙の定着	2W3D、2W4D			4月25日			
第6回	語彙の定着	2W5D、2W6D			4月27日			
第7回	語彙の定着	3W1D、3W2D			5月9日			
第8回	語彙の定着	3W3D、3W4D			5月11日			
第9回	語彙の定着	3W5D、3W6D			5月16日			
第10回	語彙の定着	4W1D、4W2D			5月18日			
第11回	語彙の定着	4W3D、4W4D			5月23日			
第12回	語彙の定着	4W5D、4W6D			5月25日			
第13回	語彙の定着	模擬試験			5月30日			
第14回	語彙の定着	5W1D、5W2D			6月1日			
第15回	語彙の定着	5W3D、5W4D			6月6日			
第16回	語彙の定着	5W5D、5W6D			6月8日			
第17回	語彙の定着	6W1D、6W2D			6月13日			
第18回	語彙の定着	6W3D、6W4D			6月15日			
第19回	語彙の定着	6W5D、6W6D			6月20日			
第20回	語彙の定着	7W1D、7W2D			6月22日			
第21回	語彙の定着	7W3D、7W4D			6月27日			
第22回	語彙の定着	7W5D、7W6D			6月29日			
第23回	実践演習				7月4日			
第24回	実践演習				7月6日			
第25回	実践演習				7月11日			
第26回	実践演習				7月13日			
第27回	実践演習				7月20日			
第28回	実践演習				9月1日			
第29回	実践演習				9月5日			
第30回	試験前対策				9月7日			
成績評価方法	単位認定 総合成績 60点、出席率 80%以上							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度								可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員	実務経験者							

科目名	読解Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	座学		対象学生	1年	開設期	半期		
区分		開設時期	後期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①12月のJLPTにおいて自身が目標とする級に合格できる力を身につける。 ②基礎的な読解力を身につけ、日本のマンガなどを楽しめるようになる。							
授業の一般目標	各々のレベル、ペースに合った内容を履修して問題対応能力を身につけながら、作文において必要な論理構成の組み立てを学んでいく。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	N3読解完全マスター(スリーエーネットワーク) N2読解完全マスター(スリーエーネットワーク)							
授業の到達目標								
□知識・理解の観点	様々な内容を読みながら語彙と文法の知識を広げる							
□思考・判断の観点	論理構成の組み立て方を学ぶ							
□関心・意欲の観点	様々な内容の文章を読み、日本文化への意欲関心を高める							
□態度の観点	長文の読解でも途切れない集中力を付ける。							
□技能・表現の観点	主語、述語、修飾語、接続詞、指示語をつかみ、的確に正解を選ぶ能力を身につける。							
授業計画(全体)								
各自自習の形で自分のレベルに合った演習をするが、「間違えない」ことを優先する。そのため、「わからない」と思ったら教師を呼ぶ。もし間違ったらどうして間違えたか考える。最後は要約をする。教員は教室を循環し、内容確認にあたる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	文章の仕組みを理解する	対比。他のものと比べる						
第2回	文章の仕組みを理解する	他の言葉で言いかえる						
第3回	文章の仕組みを理解する	ほかのものに例える						
第4回	文章の仕組みを理解する	疑問文を使って話題を提示する						
第5回	文章の仕組みを理解する	自分の意見であることを示す						
第6回	問いを解く技術を身につける	指示語を問う						
第7回	問いを解く技術を身につける	「誰が」「何が」「何を」などを問う						
第8回	問いを解く技術を身につける	下線部の意味を問う						
第9回	問いを解く技術を身につける	理由を問う						
第10回	問いを解く技術を身につける	例を問う						
第11回	情報を探し出す	広告						
第12回	情報を探し出す	お知らせ						
第13回	情報を探し出す	説明書き						
第14回	情報を探し出す	表・リスト						
第15回	テスト前復習							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート			○					良 (B) : 79点~70点
授業態度								可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席				○				
担当教員	川壽、横山			実務経験紹介				

科目名	聴解 I	単位数	2	科目コード				
授業形態	座学	対象学生	1年	開設期	半期			
区分		開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①7月のJLPTにおいて自身が目標としている級に合格できる力を身につける。 ②日本人との会話でしっかり意味を聞き取り、面接に対応できる力をつける。							
授業の一般目標	各々のレベル、ペースに合った内容を履修しながら、聞き取れなかった音を把握し、その音を体現できるレベルにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	聴解完全マスターN3(スリーエーネットワーク) 聴解完全マスターN2(スリーエーネットワーク)							
授業の到達目標								
□知識・理解の観点	聴解をしながら語彙・文法の知識を広げていく。							
□思考・判断の観点	イントネーションや表現方法から話者の気持ち、会話の展開を読めるようにする。							
□関心・意欲の観点	聴解力の向上により、会話意欲を向上させる。							
□態度の観点	受け身の姿勢にならず、自ら発音の会得をしようとする姿勢を身につけさせる。							
□技能・表現の観点	音をしっかりと聞き取り日本語能力試験に合格できるだけの聴解力を身につける。							
授業計画(全体)								
各自の電子端末に教科書の音源をダウンロードし、イヤホンを使い演習を行う。聞こえなかった音はスクリプトにマーカーをつけさせる。教員は教室循環を行い学生の出来をチェックしておき、最後に聞こえなかった音を再確認する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容	備考					
第1回	電子端末に慣れる	音声のダウンロード、クラスルームの設定、授業方針の説明						
第2回	音声の特徴になれる	1-A 間違えやすい音						
第3回	音声の特徴になれる	1-B アクセントやイントネーション						
第4回	音声の特徴になれる	1-C 似ている数字						
第5回	音声の特徴になれる	音の変化、音の高さや長さ						
第6回	「発話表現」のスキルを学ぶ	状況説明文を聞き分ける						
第7回	「発話表現」のスキルを学ぶ	許可や依頼の発話を聞き分ける						
第8回	「発話表現」のスキルを学ぶ	許可や依頼の表現						
第9回	「発話表現」のスキルを学ぶ	注意すべき動詞						
第10回	「発話表現」のスキルを学ぶ	問題を知らせる・助けを申し出る表現に注意する						
第11回	「即時応答」のスキルを学ぶ	1-A 敬語						
第12回	「即時応答」のスキルを学ぶ	1-B 間違えやすい表現						
第13回	「即時応答」のスキルを学ぶ	2-A 会話でよく使われる表現						
第14回	「即時応答」のスキルを学ぶ	2-B 決まった答え方						
第15回	「即時応答」のスキルを学ぶ	3 間接的な答え方に注意する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○		70%	秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度			○				20%	可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席				○			10%	
担当教員	川崎、横山			実務経験紹介				

科目名	聴解Ⅱ	単位数	2	科目コード				
授業形態	座学	対象学生	1年	開設期	半期			
区分		開設時期	後期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①12月のJLPTに自身が目標とする級に合格する力を身につける。 ②日本人の自然な会話の内容を理解し、メディアを楽しむ力をつける。							
授業の一般目標	各々のレベル、ペースに合った内容を履修しながら、聞き取れなかった音を把握し、その音を体現できるレベルにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	聴解完全マスターN3(スリーエーネットワーク) 聴解完全マスターN2(スリーエーネットワーク)							
授業の到達目標								
□知識・理解の観点	聴解をしながら語彙・文法の知識を広げていく。							
□思考・判断の観点	イントネーションや表現方法から話者の気持ち、会話の展開を読めるようにする。							
□関心・意欲の観点	聴解力の向上により、会話意欲を向上させる。							
□態度の観点	受け身の姿勢にならず、自ら発音の会得をしようとする姿勢を身につけさせる。							
□技能・表現の観点	音をしっかりと聞き取り日本語能力試験に合格できるだけの聴解力を身につける。							
授業計画(全体)								
各自の電子端末に教科書の音源をダウンロードし、イヤホンを使い演習を行う。聞こえなかった音はスクリプトにマーカーをつけさせる。教員は教室循環を行い学生の出来をチェックしておき、最後に聞こえなかった音を再確認する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	音声の特徴に慣れる	似ている音の聞き分け						
第2回	音声の特徴に慣れる	音の変化や縮約形						
第3回	「即時応答」のスキルを学ぶ	最初の文を理解する						
第4回	「即時応答」のスキルを学ぶ	返事の文を考える						
第5回	「即時応答」のスキルを学ぶ	確認問題						
第6回	「課題理解」のスキルを学ぶ	すべきことを理解する						
第7回	「課題理解」のスキルを学ぶ	最初にすることを考える						
第8回	「課題理解」のスキルを学ぶ	条件に合う情報を聞き取る						
第9回	「ポイント理解」のスキルを学ぶ	話し手の意図を考え、必要な情報かどうかを判断する						
第10回	「ポイント理解」のスキルを学ぶ	言い換えに注意する						
第11回	「ポイント理解」のスキルを学ぶ	多くの情報から必要な情報を拾う						
第12回	「概要理解」のスキルを学ぶ	例と例をまとめる言葉を聞き分けて、話題をつかむ						
第13回	「概要理解」のスキルを学ぶ	キーワードを関連付けて、話の構造をつかむ						
第14回	「概要理解」のスキルを学ぶ	文を関連付けて、話の主題をまとめる						
第15回	「統合理解」のスキルを学ぶ	2種類の話を整理する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎			○		70%	秀(S):100点~90点
小テスト								優(A):89点~80点
宿題授業外レポート								良(B):79点~70点
授業態度			○				20%	可(D):69点~60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席				○			10%	
担当教員	川崎、横山			実務経験紹介				

科目名	ビジネス日本語運用 I	単位数	2	科目コード				
授業形態	座学	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分		開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	EJUの作文(35点以上)、願書に書く作文能力を高め志望校に合格する。							
授業の一般目標	様々なテーマを扱いながらも作文の型を身に着け、どんなテーマにでも対応できるようにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本留学試験対策 記述問題テーマ100[基礎編][応用編] 平成29年度 日本留学試験(第1回)試験問題、平成29年度 日本留学試験(第2回)試験問題							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	自分の主張を適切に伝える語彙力、文法力を身に着ける。							
□ 思考・判断の観点	質問に対して論理的に自分の意見で答えるようになる							
□ 関心・意欲の観点	アウトプットを通して自身に足りない能力や知識に気付き、日本語学習意欲を向上させる							
□ 態度の観点	30分の作文に集中して取り組み、振り返りの重要性を知る							
□ 技能・表現の観点	自分の主張を明確に理解しやすく伝える表現力を身に着ける。							
授業計画(全体)								
前半ではEJUの問題に合わせた記述練習を行い、後半では就職・進路に向けた記述練習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
1	EJUについて	記述テーマ100 第1部 記述問題 STEP1 p2~4						
2	2つの意見の書き方	記述テーマ100 第1部 記述問題 STEP1 p6						
3	1つの意見の書き方	記述テーマ100 第1部 記述問題 STEP p7						
4	将来の予測の書き方	記述テーマ100 第1部 記述問題 STEP p8						
5	実践問題1	日本留学試験試験問題						
6	実践問題2	日本留学試験試験問題						
7	実践問題3	日本留学試験試験問題						
8	実践問題4	日本留学試験試験問題			2022/6/17(EJU直前)			
9	小論読解を通じて書き方を学ぶ(1)				6月25日			
10	小論読解を通じて書き方を学ぶ(2)				2022/7/1(JLPT直前)			
11	日本についてどう思うか	日本についてどう思うかをまとめる			7月8日			
12	あなたはどんな人	自分の長所・短所をまとめる			7月15日			
13	卒業してからどうするか	10年後の将来を語る			7月22日			
14	なぜこの学部/業種なのか	なぜこの学部/業種を志望するのかまとめる			9月2日			
15	なぜこの学校/会社なのか	なぜこの学校/会社を志望するのかまとめる			9月9日			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎			◎		80%	秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度			○				20%	可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員	川嵯、齋藤、横山、山本			実務経験紹				

2020年度 シラバス

科目名	ビジネス日本語運用Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	座学		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分		開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	EJUの作文(35点以上)、願書に書く作文能力を高め志望校に合格する。							
授業の一般目標	様々なテーマを扱いながらも作文の型を身に付け、どんなテーマにでも対応できるようにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本留学試験対策 記述問題テーマ100[基礎編][応用編] 平成29年度 日本留学試験(第1回)試験問題、平成29年度 日本留学試験(第2回)試験問題							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	面接に必要な語彙、文法を習得する。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	適切な受け答えが可能になる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自己分析を行い、個性的な意見を出せるようになる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	面接に必要な服装、マナーを身につける							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	正しい発音と表現で理解しやすい日本語の運用ができるようになる							
授業計画(全体)								
前半ではEJUの問題に合わせた記述練習を行い、公判では就職・進路に向けた記述練習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
1	ディスカッション訓練					10月7日		
2	ディスカッション訓練					10月14日		
3	ディスカッション訓練					10月21日		
4	小論文を書く					11月4日		
5	小論文を書く					11月11日		
6	小論文を書く					11月18日		
7	小論文を書く					11月25日		
8	プレゼンテーションをする					12月8日		
9	プレゼンテーションをする					12月9日		
10	プレゼンテーションをする					12月16日		
11	日本文化を学ぶ					1月13日		
12	自国の問題について					1月20日		
13	問題の原因を考える					1月27日		
14	解決策を考える					2月3日		
15	スピーチ発表					2月10日		
成績評価方法								
単位認定	総合成績60点、出席率80%以上							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎			◎		80%	秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度			○				20%	可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員	川野、齋藤、横山、山本			実務経験者				

科目名	上級語彙 I	単位数	2	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年	開設期				
区分		開設時期	前期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	7月のJLPTにて自身が目標とするJLPTに合格できるだけの語彙力をつけ、その知識を会話・作文に反映できるようにする。							
授業の一般目標	語彙を覚え、正しい選択を選べるだけでなく、更にそれを運用できるようにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	N1語彙総まとめ(アスク出版)、N2語彙総まとめ(アスク出版) N3語彙総まとめ(アスク出版)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	語彙の意味を知り、正しい使用方法を知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	適切な場面で適切に運用できるようにする。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	語彙を増やすことに喜びを感じ、主体的に語彙力の向上に努める。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	テストの結果においても優良な成績を取る。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	語彙力が強化されることにより日本語表現の幅が広がり、また聴解・読解力の向上につなげる。							
授業計画 (全体)								
①								
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	N2			備考			
第1回	JLPT対応	模擬試験1			4月11日			
第2回	語彙の定着	模擬試験復習			4月14日			
第3回	語彙の定着				4月18日			
第4回	語彙の定着				4月21日			
第5回	語彙の定着	模擬試験2			4月25日			
第6回	語彙の定着	模擬試験復習			4月28日			
第7回	語彙の定着				5月9日			
第8回	語彙の定着				5月12日			
第9回	語彙の定着	模擬試験3			5月16日			
第10回	語彙の定着	模擬試験復習			5月19日			
第11回	語彙の定着				5月23日			
第12回	語彙の定着				5月26日			
第13回	語彙の定着	模擬試験4			5月30日			
第14回	語彙の定着	模擬試験復習			6月2日			
第15回	語彙の定着				6月6日			
第16回	語彙の定着				6月9日			
第17回	語彙の定着	模擬試験5			6月13日			
第18回	語彙の定着	模擬試験復習			6月16日			
第19回	問題演習				6月20日			
第20回	問題演習				6月23日			
第21回	問題演習	模擬試験6			6月27日			
第22回	問題演習	模擬試験復習			6月30日			
第23回	N2読解	N2読解			7月4日			
第24回					7月7日			
第25回					7月11日			
第26回					7月14日			
第27回					7月21日			
第28回					9月1日			
第29回					9月5日			
第30回	期末試験対策				9月8日			
成績評価方法								
単位認定	総合成績 60点、出席率 80%以上							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度								可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員	実務経験者							

科目名	語彙Ⅱ	単位数	2	科目コード	
授業形態	座学	対象学生	1年	開設期	半期
区分		開設時期	後期	教員実務経験対象	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①12月のJLPTに合格できる語彙力を身につける ②身につけた語彙を使って幅広い会話ができる運用力を身につける				
授業の一般目標	語彙を覚え、正しい選択を選べるだけでなく、更にそれを運用できるようにする。				
受講条件					
事前学習について (テキスト・参考書等)	N2語彙総まとめ(アスク出版) N3語彙総まとめ(アスク出版)				
授業の到達目標					
□知識・理解の観点	語彙の意味を知り、正しい使用方法を知る。				
□思考・判断の観点	適切な場面で適切に運用できるようにする。				
□関心・意欲の観点	語彙を増やすことに喜びを感じ、主体的に語彙力の向上に努める。				
□態度の観点	テストの結果においても優良な成績を取る。				
□技能・表現の観点	語彙力が強化されることにより日本語表現の幅が広がり、また聴解・読解力の向上につなげる。				
授業計画(全体)					
N2語彙を学習していく。N2を既に勉強している学生には例文作成を事前課題として課す。授業では事前課題で書いた例文を添削しながら使用方法を確認し、その後暗記させ、テストを行う。また、マインドマップを使い語彙の連想を作っていく。					
授業計画(授業単位)					
回	主 題	授 業 内 容		備 考	
第1回	語彙の定着	1W1D,2D	1W1D2D	基礎固め	
第2回	語彙の定着	1W3D4D	1W3D4D	基礎固め	
第3回	語彙の定着	1W5D6D	1W5D6D	基礎固め	
第4回	語彙の定着	2W1D2D	2W1D2D	基礎固め	
第5回	語彙の定着	2W3D4D	2W1D2D	基礎固め	
第6回	語彙の定着	2W5D6D	2W5D6D	基礎固め	
第7回	語彙の定着	3W1D2D	3W1D2D	基礎固め	
第8回	語彙の定着	3W3D4D	3W3D4D	基礎固め	
第9回	語彙の定着	3W5D6D	3W5D6D	基礎固め	
第10回	語彙の定着	4W1D2D	4W1D2D	基礎固め	
第11回	語彙の定着	4W3D4D	4W3D4D	基礎固め	
第12回	語彙の定着	4W5D6D	4W5D6D	基礎固め	
第13回	問題演習	N2問題	N3問題	問題演習	
第14回	問題演習	N2問題	N3問題	問題演習	
第15回	模擬試験	N2模擬試験	N3模擬試験	模擬試験	
第16回	模擬試験	N2模擬試験	N3模擬試験	模擬試験	
第17回	語彙の定着	5W1D2D	5W1D2D	基礎固め	
第18回	語彙の定着	5W3D4D	5W3D4D	基礎固め	
第19回	語彙の定着	5W5D6D	5W5D6D	基礎固め	
第20回	語彙の定着	6W1D2D	6W1D2D	基礎固め	
第21回	語彙の定着	6W3D4D	6W3D4D	基礎固め	
第22回	語彙の定着	6W5D6D	6W5D6D	基礎固め	
第23回	語彙の定着	7W1D2D	7W1D2D	基礎固め	
第24回	語彙の定着	7W3D4D	7W3D4D	基礎固め	
第25回	語彙の定着	7w5D6D	7w5D6D	基礎固め	
第26回	語彙の定着	8W1D2D	8W1D2D	基礎固め	
第27回	語彙の定着	8W3D4D	8W3D4D	基礎固め	
第28回	語彙の定着	8W5D6D	8W5D6D	基礎固め	
第29回	試験前対策	試験前対策	試験前対策	テスト前対策	

第30回	試験前対策	試験前対策	試験前対策	試験前対策	試験前対策	試験前対策	試験前対策	テスト前対策
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B) : 79点~70点
授業態度								可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) : 59点以下
演習								
出席								
担当教員				実務経験紹介				

科目名	上級漢字 I	単位数	2	科目コード				
授業形態	講義	対象学生		開設期				
区分		開設時期		教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	7月のJLPTにて自身が目標とするJLPTに合格できるだけの漢字力をつける。							
授業の一般目標	漢字の読み書きを覚えるだけでなく、更にその漢字にまつわる語彙を覚え運用できるようにする。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	N2総まとめ漢字(アスク出版) N3総まとめ漢字(アスク出版)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	漢字の構造を知り、正しい読み書きを知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	使用法を誤らず、正しく使える。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	漢字の成り立ちなどを覚え、学習の意欲を持つ。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	テストの結果においても優良な成績を取る。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	漢字の意味を知ることによって読解力が上がり、正しく美しく書けることで作文の印象を向上させる。							
授業計画 (全体)	導入期間、試験対策期間、運用練習期間をきっちりわけて学生に目標を明示していく。 ①共同で学習する単語をリスト化する ②それぞれGoogle翻訳にあてる。例文の使用法と相違ないか確認。 ③覚える ④自分でテスト ⑤例文作成してみる							
授業計画 (授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容		備 考				
第1回	基礎固め	1W1D,2D	1W1D2D					
第2回	基礎固め	1W3D4D	1W3D4D					
第3回	基礎固め	1W5D6D	1W5D6D					
第4回	基礎固め	2W1D2D	2W1D2D					
第5回	基礎固め	2W3D4D	2W1D2D					
第6回	基礎固め	2W5D6D	2W5D6D					
第7回	基礎固め	3W1D2D	3W1D2D					
第8回	基礎固め	3W3D4D	3W3D4D					
第9回	基礎固め	3W5D6D	3W5D6D					
第10回	基礎固め	4W1D2D	4W1D2D					
第11回	基礎固め	4W3D4D	4W3D4D					
第12回	基礎固め	4W5D6D	4W5D6D					
第13回	基礎固め	5W1D2D	5W1D2D					
第14回	基礎固め	5W3D4D	5W3D4D					
第15回	基礎固め	5W5D6D	5W5D6D					
第16回	基礎固め	6W1D2D	6W1D2D					
第17回	基礎固め	6W3D4D	6W3D4D					
第18回	基礎固め	6W5D6D	6W5D6D					
第19回	基礎固め/演習慣れ	7W1D2D	パワードリル文字語彙 第1、2回					
第20回	基礎固め/演習慣れ	7W3D4D	パワードリル文字語彙 第3、4回					
第21回	基礎固め/演習慣れ	7W5D6D	パワードリル文字語彙 第5、6回					
第22回	基礎固め/演習慣れ	8W1D2D	パワードリル文字語彙 第7、8回					
第23回	基礎固め/演習慣れ	8W3D4D	パワードリル文字語彙 第9、10回					
第24回	基礎固め/演習慣れ	公式模試 第1回	公式模試 第1回					
第25回	基礎固め/演習慣れ	8W5D6D	パワードリル文字語彙 第11回、12回					
第26回	基礎固め/演習慣れ	公式模試 第2回	公式模試 第2回					
第27回	基礎固め/演習慣れ	パワードリル文字語彙 第1回~3回	パワードリル文字語彙 第13、14回					
第28回	基礎固め/演習慣れ	パワードリル文字語彙 第4回~6回	パワードリル文字語彙 第15、16回					
第29回	試験前対策	試験前対策	試験前対策					
第30回	試験前対策	試験前対策	試験前対策					
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○						秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート					○			良 (B) : 79点~70点
授業態度								可 (D) : 69点~60点
発表・作品			○					不可 (E) : 59点以下
演習								
出席				○				
担当教員	川崎、齋藤			実務経験者				

科目名	漢字Ⅱ	単位数	2	科目コード				
授業形態	座学	対象学生	1年	開設期	半期			
区分		開設時期	後期	教員実務経験対象				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	①12月のJLPTに合格できる漢字力を身につける ②一般的な新聞や雑誌をフリガナがなくとも凡そ理解できるようになる							
授業の一般目標	N2総まとめの二日分の漢字を暗記していく。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書籍)								
授業の到達目標								
□知識・理解の観点	漢字の構造を知り、正しい読み書きを知る。							
□思考・判断の観点	使用法を誤らず、正しく使える。							
□関心・意欲の観点	漢字の成り立ちなどを覚え、学習の意欲を持つ。							
□態度の観点	テストの結果においても優良な成績を取る。							
□技能・表現の観点	漢字の意味を知ることによって読解力が上がり、正しく美しく書けることで作文の印象を向上させる。							
授業計画(全体)								
意味はスプレッドシートを利用したGoogle翻訳で確認する。マインドマップを使って既習の漢字と新たに学ぶ漢字を覚えるなど暗記をスムーズに行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容		備 考				
第1回	基礎固め	1W1D,2D		1W1D2D				
第2回	基礎固め	1W3D4D		1W3D4D				
第3回	基礎固め	1W5D6D		1W5D6D				
第4回	基礎固め	2W1D2D		2W1D2D				
第5回	基礎固め	2W3D4D		2W1D2D				
第6回	基礎固め	2W5D6D		2W5D6D				
第7回	基礎固め	3W1D2D		3W1D2D				
第8回	基礎固め	3W3D4D		3W3D4D				
第9回	基礎固め	3W5D6D		3W5D6D				
第10回	基礎固め	4W1D2D		4W1D2D				
第11回	基礎固め	4W3D4D		4W3D4D				
第12回	基礎固め	4W5D6D		4W5D6D				
第13回	基礎固め	N2問題		N3問題				
第14回	基礎固め	N2問題		N3問題				
第15回	基礎固め	N2模擬試験		N3模擬試験				
第16回	基礎固め	N2模擬試験		N3模擬試験				
第17回	基礎固め	5W1D2D		5W1D2D				
第18回	基礎固め	5W3D4D		5W3D4D				
第19回	基礎固め／演習慣れ	5W5D6D		5W5D6D				
第20回	基礎固め／演習慣れ	6W1D2D		6W1D2D				
第21回	基礎固め／演習慣れ	6W3D4D		6W3D4D				
第22回	基礎固め／演習慣れ	6W5D6D		6W5D6D				
第23回	基礎固め／演習慣れ	7W1D2D		7W1D2D				
第24回	基礎固め／演習慣れ	7W3D4D		7W3D4D				
第25回	基礎固め／演習慣れ	7w5D6D		7w5D6D				
第26回	基礎固め／演習慣れ	8W1D2D		8W1D2D				
第27回	基礎固め／演習慣れ	8W3D4D		8W3D4D				
第28回	基礎固め／演習慣れ	8W5D6D		8W5D6D				
第29回	試験前対策	試験前対策		試験前対策				
第30回	試験前対策	試験前対策		試験前対策				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○			秀 (S) : 100点~90点
小テスト								優 (A) : 89点~80点
宿題授業外レポート			○					良 (B) : 79点~70点
授業態度								可 (D) : 69点~60点
発表・作品								不可 (E) :59点以下
演習								
出席				○				
担当教員	川崎、山本、横山			実務経験紹介				

科目名	ビジネス・マナー		単位数	1	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	接客対応の基礎 『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。 基本的な接客マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。							
授業の一般目標								
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	『これだけは知っておきたい面接対策&ビジネスマナー』(株式会社 ウイネット)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. サービス接客とは何かについて、接客業を上手く熟するための課題が説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域についての内容を、活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. サービス接客に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. サービス接客の必要性を考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備考	
第 1 回	授業開始について ビジネスマナーとは何か	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サービスの意味、接客とは何かを覚える						
第 2 回	面接対策①	面接の目的、流れを知る						
第 3 回	面接対策②	面接ロールプレイ						
第 4 回	面接対策③	面接ロールプレイ						
第 5 回	来客対応①	来客対応の流れを知る						
第 6 回	来客対応②	来客対応ロールプレイ						
第 7 回	訪問のマナー	他社訪問のマナー						
第 8 回	対人コミュニケーション①	社会人に求められる話し方						
第 9 回	対人コミュニケーション②	社会人に求められる聞き方						
第 10 回	報告・連絡・相談	指示の受け方と報告・連絡・相談						
第 11 回	電話対応①	電話対応の重要性を知る						
第 12 回	電話対応②	電話のかけ方						
第 13 回	電話対応③	電話の受け方 伝言メモの書き方						
第 14 回	全体の復習	全体の復習、授業の振り返り						
第 15 回	試験実施	試験問題の答え合わせと解説						
成績評価方法								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					90	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○					良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎				可 (D):69点~60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席			○					
担当教員	金森 孝子			実務経験紹介				

科目名	コミュニケーション技法		単位数	1	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	講義		対象学生		開設期	半期		
区分	必須		開設時期		教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日本で生活する上で必要なマナーを身に付ける。							
授業の一般目標	1. 日本でより良く生活するための知識とマナーを身に付ける。 1. 対人コミュニケーションを円滑に進めることができるようになる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点:								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点:								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点:								
<input type="checkbox"/> 態度の観点:								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点:								
授業計画(全体)								
ビジネスの各場面において知識の導入後ロールプレイを行い、適切な日本語の運用を学び、語学力の向上につなげる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション	授業の目的・目標についての説明 自己紹介						
第2回	日本語の発声・発音	日本語の発声・発音練習 感じの良い話し方						
第3回	あいさつ言葉	それぞれの場面でのあいさつ言葉						
第4回	言葉づかいの基本	敬語の基本						
第5回	日本のことわざ	日本のことわざについて学び、意味を知る						
第6回	日本の年中行事としきたり①	日本の習わしの意味を知り、季節を感じる						
第7回	日本の年中行事としきたり②	日本の習わしの意味を知り、季節を感じる						
第8回	前半の復習	前半授業の確認テスト実施、解説						
第9回	食事のマナー①	日本料理のいただき方						
第10回	食事のマナー②	洋食のテーブルマナー						
第11回	贈り物のマナー	日常のお祝い、お見舞い、贈答のマナー						
第12回	冠婚葬祭のマナー①	お祝いのマナー						
第13回	冠婚葬祭のマナー②	お悔みのマナー						
第14回	手紙のマナー	心が伝わる手紙、ハガキのマナー						
第15回	全体の振り返り・試験実施	試験実施						
成績評価方法								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	◎	◎		90%	秀(S):100点~90点
小テスト							10%	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート			○					良(B):79点~70点
授業態度			○					可(D):69点~60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	金森 孝子			実務経験紹介				